

第18回病診連携委員会要録

日時	平成23年1月31日（月）午後7時30分
場所	浪速区医師会 会議室
出席者	浪速区医師会 : 8名 愛染橋病院 : 2名 大野記念病院 : 2名 四天王寺病院 : 1名 多根総合病院 : 2名 富永病院 : 2名 浪速生野病院 : 1名 山本第三病院 : 1名 大村医院 : 1名

議 題

1. 第17回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. 病診連携委員会のアンケート結果について

① 病診連携での受け入れに問題が生じた場合の解決方法について

まずは関連した病院間で相談して解決方法を検討するが、どうしても困難な場合は連携する第3の病院を加えて相談して解決をはかるといった回答が主であった。

しかし、主治医に治療方針を確認しないと解決方法が決まらない場合や、病状によっては救急隊に依頼するしかない場合もあるとの意見があった。

ブルーカードのコンセプトからも、できるだけ連携病院内で解決するように努力することが確認された。

② 今後ブルーカードに添付すべきデータについて

多くの情報があれば、その分病院や患者に役立つということは理解できるものの、これまでのシンプルなシステムで全員参加を推進してきた経緯に反することになるという意見や、現状でも十分との意見があった。また、ブルーカードの今後の発展性を考えて、少しでも多くの共有データ（血液検査、心電図、画像、超音波など）を増やし、ブルーカードをいろいろな形で利用できるような工夫をしていく推進意見もあった。直近の血液検査データの添付から始める意見や、iPad を使って作業を簡便にする意見など、できるだけ敷居を低くして始める案もあったが、浪速区医師会の責任の範囲を逸脱する可能性を危惧したり、セキュリティやトラブルの発生を不安視する意見もあった。

今後もブルーカードの発展的利用をもう少し内容を煮詰めて議論することとした。

③ 病院側からのブルーカードの登録勧奨について

病院からの積極的な登録勧奨についてはほとんどの施設が賛成であった。

④ エリア内の病院限定での登録医制について

症例数が増えることで受け入れが困難になるのではないかと心配意見もあったが、登録数に比して実働がかなり少ない現状からも十分に余地があることが説明されたことで、全病院が賛成となった。

3. 病名コードの確認について

資料のとおり、病名コード一覧については満場一致で了承された。

今後の登録は、データ管理の必要性和利便性から病名コードで記入することとなった。

4. 病院登録制について

浪速区以外の診療所からもブルーカードシステムの利用を希望する声が多いので病院登録制を開始する予定である。しかし、その先生が所属する地区にある病院限定で登録を可能とするならば、浪速区医師会でその他地区の登録患者の情報管理をすることには問題がある。そうすると浪速区医師会からの登録ではなく、セキュリティーレベルの高いシステム管理会社を利用して直接データをアップする方法が示唆された。

5. 大村医院（西成区）の地域医療ネットワークについて

ブルーカードの原型となった大村先生が独自で行っている「緊急受診用紹介状システム」とそれを生み出した背景などについて講演をしてもらった。

大村先生は奈良県立医大の放射線科の出身で、鶴見橋商店街に先代から引き継いだ大村医院を開設している。外来患者は、①複数の疾患をもち、②その疾患の重症度はバラバラで、③それらが年々変化し、④他科の疾患との兼ね合いも不明で、⑤重要情報がともしれば分かりにくくなることを心配して、医院継承にあたり IT を利用したデータ管理を構築しようと考えた。そこで MATRIX2000 というシステム（健診・慢性疾患管理ソフト）を作り、患者情報を管理することとした。年 1 回の検診データを入力し、身体所見、他施設での検査結果、自院での画像検査結果を入力して、慢性疾患の管理状況を 4 段階評価で判定した。

患者に 1 年 1 回、検診データとともに疾患サマリー、検査サマリーを記入した緊急受診用紹介状を提供するとともに、慢性疾患の状況と管理プラン、生活指導内容、検査履歴が捜せばわかる情報ではなく、初めから見えている情報として診察時に出てくるようにしている。約 300 人に紹介状を提供しているが、利用数は年間 3～4 人で、患者はその情報で安心を得ているものの気安く使ったりしないとのことであった。

6. ソフトバンクとの連携とブルーカードの今後の方針について

以下の意見があった。

- ・ 性急に進めるのではなく、患者中心に考えていくようにする
- ・ 病院側は、診療所がアップしたデータを見せてもらう立場なので連携先やアップする内容については任せる。
- ・ 現在は関電ジョイフルを利用しているが、その管理会社がソフトバンク・IIJ を中心としたものになるだけで難しく考える必要はない。
- ・ 金銭が発生することなので協力できる診療所から始めていき、これまで通り FAX を希望するところは現状のままでいくのがよいのではないか。
- ・ 診療所向けに iPad の説明会を開催する必要がある。
- ・ 登録医制はエリアを決めて導入する方がよいので、まずは近隣区のみとする。

7. その他

ブルーカードの登録数の報告について

現在までの登録症例は 185 件、稼働件数は 31 件、死亡などによる中止は 13 件である。